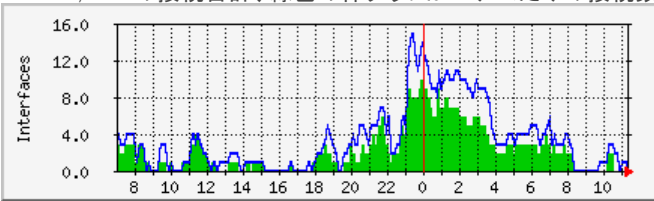


回線のUp/Downを監視する手段はたくさんありますが、中でもフリーのMRTGがよく利用されてます。BMRTGはもともとのインタフェースの送信データ、受信データのトラフィックを計測するツールですが、弊社で用意しているスクリプトを利用することにより、簡単に回線のUp/Downが監視できます。(青色の折れ線グラフが総接続数(TAやModem, Piasfsの接続合計、緑色の棒グラフがモデムだけの接続数をあらわします。))



MRTGを利用する手順を以下にまとめます。

1.UNIXマシンにMRTGをインストールする。
MRTGは、ほとんどのUNIXマシンで動作します。中でもLinuxやFreeBSDが良く利用されているようです。
MRTGは、Perl5やgd、httpd(apache等)を必要としますので詳しくはMRTGのサイトをご覧ください。検索サイトでキーワード「MRTG」で検索するとインストール方法や導入事例など有益な情報を取得することができます。

2.SNMPの情報を収集するためにNS-2482-30の設定を行う。

<serversファイル>
snmpdが起動しているか否かserversファイルを参照し先頭に#がないことを確認してください。
先頭に#がありコメントになっている場合は#を外し、再起動してsnmpdを起動します。

```
:  
/share/snmpd -> 先頭に#がありコメントになっている場合は外す  
:
```

<snmpconfファイル>

コミュニティを登録します。下記の例では「siipublic」というコミュニティを登録しております。

```
community siipublic view1
```

3.回線のUp/Downのツールをダウンロードします。(NS-2482-30 8BRI用、NS-2482-30 1PRI用)

4.ダウンロードしたコンフィグを環境にあわせて修正してください。(NS-2482-30 8BRIの修正例、NS-2482-30 1PRIの修正例)

5.修正が終了したら、.plファイルに実行権をつけます(chmod +x ファイル名)

6.下記のようにコマンドを実行し、適切な数値が取得できるか確認を行います。利用状態は、AlinestatコマンドやmodemstatコマンドをNS-2482-30上で実行し利用数が合致しているか確認してください。下記のようにModem数、Totalの回線数Up数が表示されれば正常に動作しています。

(例) PRIの場合

```
/usr/local/etc/mrtg-2.8.12/run/ns2482pri.pl siipublic@10.1.1.1  
1 --> Modem?*br> 2 --> Modem+TA+PIAFS?*br> 6 day, 0:32:42  
ns2482-30
```

7.データの定期取得

下記のコマンドを3回実行します。まだデータの保存先ディレクトリを作成していないので若干エラーがでますが無視して3回実行してください。実行後、データ保存先のディレクトリにHTMLファイルやlogファイルが作成されているか確認してください正常であれば3回目の実行は何もエラーは表示されないはずです。FreeBSDなどでMRTGがパッケージされている場合は特に注意する必要はありませんが、Linux等でインストールする場合は、MRTGが用意しているPerlライブラリが見つからないというエラーがでる可能性があります。その場合はMRTGで用意されているSNMP_Session.pm等の*.pmファイルをPerl5のlibの下(/usr/lib/perl5/5.00503等)にコピーしてください。

(例) PRIの場合

```
mrtg /home/mrtg/ns2482pri.cfg
```

5分間隔でデータ取得するためにcrontabを下記のように修正します。

(例) PRIの場合

```
*/5 * * * * root /usr/local/bin/mrtg /home/mrtg/ns2482pri.cfg
```

8.作成したデータ(html)をナビゲータで確認し終了です。